

静岡県の学校図書館

平成 28 年 1 月発行
静岡県総合教育センター
生涯学習推進室

「確かな学力」を
身につけるための
学校図書館活用授業

「これからの学校図書館担当職員に求められる役割・職務 及びその資質能力の向上方策等について(報告)

- 学校図書館の利活用の意義について
- 確かな学力の育成には、言語活動や探究的な学習の充実が必要。
 - 同時に、読書活動等を通じて児童生徒の豊かな人間性を形成していくことが求められる。
 - これらの活動の充実のため、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての学校図書館の整備を進め、これを利活用していくことが重要。

【学校図書館担当職員の役割及びその資質の向上に関する調査
研究協力者会議】平成26年3月

学習指導要領には、児童生徒に知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むことが必要であると示されています。その「生きる力」を支える要素となるのが「確かな学力」です。「確かな学力」を育成するためには、基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、これらを活用して自ら課題を解決することが求められます。さらに、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に判断し学習する態度を養うことも重視されます。その主体的な学びを支える一つに学校図書館があります。学校図書館には、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能があり、この3つのセンターの役割を効率よく教育課程の中で取り入れ、授業の中で活用することが重要です。

ここでは、11月に行われた富士市立元吉原中学校での研修の様子を紹介します。学校図書館を授業で活用し、子どもたちの主体的な学びを引き出す授業が行われました。

学校図書館活用で授業改善研修 ～教科のねらいを達成させる学校図書館活用授業を構想する～

2年生社会科の授業、地理分野「中部地方の産業について」の単元です。まず、中部地方の産業の中で日本一になっているものはどのようなものがあるかを見つけ、その理由を図書資料・インターネットを活用し調べていきます。この単元で付けたい力を「中部地方で日本一になっている地理的条件を様々な資料をもとに多面的・多角的に考察し、自分の考えをまとめ、発表する」(社会的な思考判断・表現)としました。中部地方の産業は様々な分野で日本一になっています。その理由として、自然環境、原料供給や消費地との関係、交通網、歴史などがあげられます。このことから、あらゆる視点をもって生徒たちに考えさせ、図書資料やインターネット、統計グラフを使い中部地方の産業から地域的特色を見いだすこととしました。



自分の考えを発表する生徒

実際の授業では、この時間までに自分なりに考察しグラフにまとめたものを示しながら発表を行いました。自分の調べたことや考えたことを根拠をもって発表しているか、お互いの発表を聞き合う中で共通点をあげることができたかなどが授業の視点となりました。

ここでは、「中部地方の産業について」多面的・多角的に考察するために様々な図書資料そしてインターネットが必要となります。そのため、学校図書館を活用し、必要な資料・データを自らの手によって調べ、まとめていきました。図書資料については、学校にあるものは限られているため、学校司書が近隣の小中学校や公共図書館から60冊ほどの資料を準備しました。また、学校司書が授業にも関わり、調べたい内容に合った資料についての支援をしました。

参加者からは、「図書館の資料だけでなく、市内の図書館と連携して資料を集め、ねらいをもって指導をしていくことで、立派なまとめができる。」「ジグソーのようにテーマが違うもの同士の発表、共通点を見つけていく姿がとても生き生きしていた。」「司書教諭の横の繋がりを通して、図書室の本を充実させていること、司書教諭を授業に巻き込んでいることが素晴らしい。」との感想が聞かれました。

学校図書館を積極的に授業で活用し、子どもたちの主体的な学びを支える取組は多くの学校で行われています。ここでは、袋井市立袋井北小学校と御前崎市立御前崎小学校での実践を紹介します。

時間や事柄の順序を確かめながら読む

袋井市立袋井北小学校

袋井北小学校では、様々な教科で学校図書館を積極的に活用しています。ここでは、2年生の国語『どうぶつ園のじゅうい』を扱った授業を紹介します。

この単元では、身につけさせたい力を、「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと」としました。授業では、子どもたちの理解を深めるために「お仕事紹介シート」というワークシートを用いました。この「お仕事紹介シート」は、自分が気になったり、憧れたりする仕事について、図書資料『しごとば』を用いて調べ、時間、事柄、文章上の順序などに気をつけ、友達や家族に伝わりやすいようにまとめるものです。まとめた「お仕事紹介シート」は教室に掲示して友達や家族に読んでもらう、という活動までを単元を貫く言語活動として位置づけました。

参観者からは、『どうぶつ園のじゅうい』を学ぶことで、順序のある文章に触れることができた。「図書資料『しごとば』が子どもたちの興味を引き出し、大変効果的であった。」「資料の力が大きい。この単元では視覚に訴える図鑑がよい。」「この学びを次につなげ、自ら発信する文章を書かせたい。」などの意見が出されました。今回は事前準備として、この授業を行うために学年の職員で協力し、図書資料『しごとば』を各地域の公共図書館から集めました。また、職員で共に授業構想をしたことで、職員間の共通理解が図られました。学年の職員の連携が、子どもたちの主体的な学びにつながっていく提案授業となりました。



おしごとしょうかいシート



図書資料：『しごとば』

司書教諭と行う連携授業

御前崎市立御前崎小学校

御前崎小学校では、4年生の国語教材『初雪のふる日』の導入として「ブックトーク」を用いました。ここでは、司書教諭が担任と連携し、「ブックトーク」を行ったことで、子どもたちの教材に対する興味・関心を引き出しました。

この単元でつけたい力を「場面の様子や登場人物の気持ちを想像を広げながら読み、声の抑揚、強弱、間の取り方などに気をつけて音読する」としました。司書教諭による「ブックトーク」は、優しい語り口、精選された内容説明で、子どもたちが本を「読んでみたい!」と思わせるような工夫が多く、子どもたちはみな物語の世界に引き込まれていきました。「ブックトーク」を聞いた後は感想を書き、友達と本の内容について交流し合いました。この



司書教諭によるブックトーク

授業で印象に残ったことは、子どもたちが友達の意見をしっかりと受け止め、それを自らの意見に反映させ発表していく姿が見られたことです。先生方のこれまでの授業の積み重ねの成果だと感じました。「ブックトーク」の意義は、「本を知る」「本に興味をもつ」ということにつきます。そうした意味で「読書を楽しむきっかけ」づくりとしての「ブックトーク」の場の設定は大変有効であったと思います。

さらに、授業で必要な本を集めることは、どの学校でも苦勞していることです。今回、御前崎小学校は公共図書館の力を借り、同じ本をできるだけ多く集め、子どもたちの学びを支えたということでした。公共図書館が学校図書館と連携し、子どもたちの読書活動を推進していくことは他地区の見本となる事例です。今後、このような連携が各地区で見られるよう望みます。

静岡県総合教育センター 生涯学習推進室は **学校図書館を支援**します

<問い合わせ先>

静岡県総合教育センター 生涯学習推進室

<電話>0537-24-9714



図書館を改造したい! 選書について知た
い! どんな活用があるの? など
気軽に声をかけてください